

日刊 動 労 手 業

81.11.21
No.901

國鐵千葉動力車労働組合

あはれの如きがされた「6.12事件」にテヅナ上げ

十月二十七日開かれた勤労「本部」革マル反動分子が「テツチ
上げた「6・12暴力事件」オ一回公判廷で、勤労千葉顧問弁護
団より申請し認められた裁判官による現場検証が、十一月十九
日津田沼電車区構内で実施された。この狙いは、勤労「本部」
革マル反動分子と、警察・検察庁一体となつた「事件」の「テツ
チ上げ性」作文を暴き、現場の状況、距離感を裁判官に知らせ
るのが目的であつた。

十三時三十分より、津田沼電
車区踏切り附近を中心にして、動労
千葉顧問弁護団を先頭に、西森
法対部長、不当起訴されて
いる三名の仲間は、津田沼支部組合
員会立ち入り、裁判局、食事、船橋

警察の“デカ”を相手に、デッキ上上げを全面的にあばくために、終始怒りの決意を胸に秘めて闘い抜いた。

嶋田らが権力と完全に一体となり、自作自演で“デッキ上げた”がゆえに、「起訴状」の作文と現場見取図なるものが、あまりにもでたらめであることが、この現場検証の結果あきらかになつたのである。

例えば、裁判所に証拠として検察側が提出している、「暴力があつた」と主張する現場から踏切り南端までの「見取り図」が、まったくでたらめであつたことである。

このように、せたらめな事実
が一つ一つ暴露されていくたび
に検事の顔は蒼くなり、うろた
え、「起訴状」の作文を、あた
かも当時自分が現場にいたかの
よう作りかえることに突々と
したのである。すでにわれわれ
の勝利は明白である。わわわれ
は、今後の裁判闘争過程で、敵
権力のデッヂ上げ性を一つ一つ
暴きだし、公判闘争の勝利をか

A black and white photograph capturing a somber outdoor scene. In the center, a person lies motionless on a light-colored, rectangular platform or stretcher. Several individuals are gathered around the individual, some appearing to be medical or law enforcement personnel. The setting is an urban area with buildings visible in the background. The overall atmosphere is one of a serious emergency or investigation.

ちとるため聞わねばならない。
次回の十二月十日の公判で、
検察側証人尋問が開始される。
ここに、デッヂ上げの張本人斎
藤吉司が出廷する。斎藤吉司の
この間の犯罪性をことごとくあ
ばきだし、粉碎するために決起

第二回公判
12月10日 13時千葉地裁

サーカル協主催第
回テニス大会は、十一
月十九日、白子サニ
コートで開催され、九

月六日が雨で順延になつていった個人戦の熱戦が再開された。

サークル協主催オ三回テニス大会は、十一月十九日、白子サニーコートで開催され、九月六日が雨で順延になつていった個人戦の熱戦が再開された。



テニス大会 -個人戦-

65名参加し熱戦展開

の4-1ムがビ
グループで決
勝トーナメン
トを行つた。
各コートご
は名支部の代
表選手の白熱
した好試合が
展開され、緊
迫したなかに
コミカルなア

★	A	クラス
	優勝	小島進一・椿勇(津田沼)
	準優勝	茅野徹・武井明道(新小岩)
	三位	小沢天任・高橋忠男(千葉縣)
★	B	クラス
	優勝	米元和雄・沢勇治(勝浦)
	準優勝	小島鎮雄・小野泰治(千葉縣)
	三位	白井敏天・奈良輔秀夫(千葉縣)
★	C	クラス
	優勝	森下薰(葛飾)
	敗闘賞	西明政(新小岩)
		重見敏夫(深谷)・飯尾翠石
		今田忍(千葉縣)・佐藤敬一・佐藤正義(勝浦)
		中鉢季治・高木伸二・大関弘明(成田)

卷之三

全組合員・家族の強固な團結で組織破壊攻撃を粉碎せよ。